

「自立した学び」を子供たちに

— 吉名学園が挑む「探究×共創」のカリキュラム —

「自立した学び」とは、子供たちが自らの思いや願いを基に目標や計画を立て、様々な困難や失敗と出合ったり、迷ったりしながらも、自ら学びを調整しながら課題を解決していく学びです。私たちは、子供たちに学びの主権を返すことで、未来を切り拓く力を育てていきたいと考えています。

その学びは誰かが与えるものではなく共に創り出すものです。吉名学園では、これを「共創」と捉えています。子供たち・教職員・地域・保護者が、共に子供たちの学びや地域の未来を創っていきます。



子供との共創

思いや願いを起点に探究が始まる。探究の過程で生まれた「問い」が学びを導く。教師と子供との対話、子供同士の対話が思いや願いを醸成し、「問い」を深め、新たな学びが創り出される。こうした一連の営みを通して、子供と共にカリキュラムを創り上げていく。

探究×共創

「自立した学び」の実現に向けて、子供の学びの姿を基に対話を重ね、それぞれの視点で学びを創っていく。互いの授業に学び、支え合いながら、学校全体でカリキュラムを創り上げていく。

自分たちの町の課題に対して、子供と地域・保護者が協働して解決を図っていく。地域・保護者の願いや知恵が、子供の探究をより豊かにする。こうして地域・保護者と共にカリキュラムを創り上げていく。



教職員同士の共創



地域・保護者との共創

理念の共有

様々な場面で学校の理念を伝え、地域・保護者・児童生徒と理念の共有を図る。



入学式での
学校長挨拶

教師も探究する学校

PDCAサイクルを意識した研修を通して子供たちの姿について語り合いながら教師の目を磨く。



複数でウェビングを
行い材の可能性を探る



子供の「よさ」や「可能性」を
見取る授業研究会

「探究×共創」を支える風土

地域とつながる学び

地域の材に触れる体験が、
学びの起点をつくる。



じゃがいもの食べ比べ
⇒じゃがいものPR活動へ



干潟の観察会
⇒吉名の自然のPR活動へ

地域の方も参画する単元づくり

材に関する情報や町への思いや願いなどを
伝え合い、地域の方が単元づくりへ参画する。



学校運営協議会での
材に関する情報提供